

# 駿河台の地における中央大学100年のあゆみ

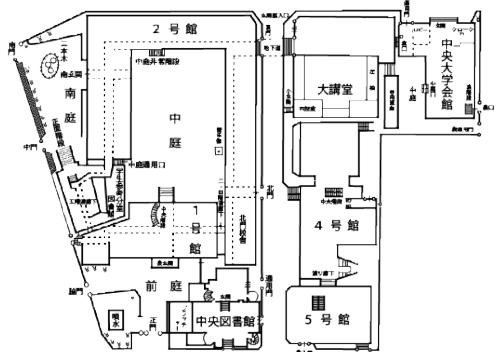
中央大学は2025年に創立140年を迎えた。記念すべき節目にあたり、神田駿河台の地における本学のあゆみを紹介する。現在、地上20階の高層キャンパスとして専門職大学院の学びを支える駿河台は、1926年から1978年までの間、本学の中心であった。本学が駿河台の地に刻んだ約100年の歴史を振り返っていきたい。

## 1. 駿河台校舎 (1926-1980)

本学の前身である英吉利法律学校は、1885年に神田錦町（現千代田区）の地に創設された。1905年に中央大学へ改称するとともに経済学科が開設され、次いで商業学科が開設されたことで、錦町校舎では学生数の増加に対応できなくなり、さらに1923年の関東大震災によって新設の図書館以外が焼け落ちたことで、神田駿河台へと移転することになる。

1926年に建設された駿河台校舎は、のちの2号館のみであった。1930年に図書館（のちの学生参考分室、大学院分室）、1935年に創立50周年記念講堂（大講堂、のちの3号館）が建設された。戦後になり、大学会館（1956年）、1号館（1958年・1964年に10階に増築）、4・5号館（1964年）、中央図書館（1967年）が建設され、駿河台校舎の建物が全て出揃った。

ところが、中央図書館建設から約10年後の1978年には文系4学部（法・経済・商・文）が多摩に移転し、駿河台校地・校舎の大半は売却されることになった。1980年には盛大な閉校祭が開催され、駿河台校舎約50年の歴史に幕が降ろされた。



駿河台校舎配置図(1960年代)

## 2. 大学会館 (1956-1988)

大学会館は1956年に創立70周年事業として建設された。当初は体育館との併設が構想されていたが、食堂と会議室、宿泊施設を兼ね備えた学生と学員の交流施設として落成した。駿河台校地・校舎の大半は多摩移転により売却されるが、唯一大学会館の土地と建物だけは維持されることになった。この大学会館が残されたことで、駿河台の地における本学のあゆみが現在まで続くことになる。



大学会館

## 3. 駿河台記念館 (1988-2020)

大学会館は、1988年に駿河台記念館として生まれ変わる。当初の名称が「中央大学創立百周年記念館」であったように、1985年の創立100周年記念事業として建設された。後楽園キャンパスとともに本学の都心における拠点となり、特に都心における学員の交流の拠点として重要な役割を担った。



駿河台記念館

## 4. 駿河台キャンパス (2023-)

駿河台記念館は、2023年に駿河台キャンパスへと生まれ変わる。かつての駿河台校舎3号館をイメージした外観で、学員会事務局、白門サロンが入り、引き続き都心における学員の交流の拠点として重要な役割を担う。さらに、市ヶ谷キャンパスからロースクール、後楽園キャンパスからビジネススクールの2つの専門職大学院が移り、模擬法廷や専門職大学院図書室が設置されるなど、約50年の時を経て再び駿河台の地が教育施設として活躍しているのである。



駿河台キャンパス

### 法と正義の資料館・大学史資料館

入館料／無料

開館時間／10:00-17:00 ※入館は16:30まで

休館日／日曜・祝日

※ご来館の際は、資料館Webサイトから最新の開館スケジュールをご確認ください。

アクセス／多摩キャンパス「炎の塔」2階

多摩都市モノレール「中央大学・明星大学駅」徒歩約10分

※資料館Webサイトに資料館までのキャンパス案内マップがございます。

〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1

TEL 042-674-2132 / FAX 042-674-2203

法と正義の資料館・大学史資料館

<https://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/efforts/museum/>

